

日本産 *Coenonympha* 屬に就いて

岡田 慶夫・鳥居 正名

Ueber die japanischen Arten der Gattung *Coenonympha*.

OKADA-Y. und TORII-M.

I. 一般的考察

Coenonympha 屬は *Satyridae* 中の小形種を含む屬であり，表面の斑紋はほとんどなく，大體暗い單一色であり人の目を引かない屬である．鱗粉は厚い感じを與へる．裏面は前後翅縁に並ぶ眼狀紋列がその内側の波狀帶と共に地味な美しさを現はす．一見すれば表面と裏面の鱗粉の質は異なる様であるが，顯微鏡では本質的な差異はみとめられない．併し誰でも表面の鱗粉が裏面のものより剥げ易い事は経験するであらう．

前後翅はほぼ等面積で翅質柔らかく，縁毛はよく發達してゐる．翅脈は前後翅共閉ぢ，前翅第12脈，第2,3の合脈，及第1脈の基部は著るしく増大し，この屬の顯著な特徴を形成してゐる．觸角は他の *Satyridae* と同様に細く，尖端はやゝ太く，長さは大體前翅前縁の $\frac{1}{2}$ 程度である．體は大體翅の地色と同色．♀の腹部は特に肥大す．

本屬の分布は舊・新北兩地方に互り，我國にては北部又は山地に多い．我國に産するものは3種で，*Coenonympha oedippus*; *C. hero*; *C. amarylis* である．之等の分布は：—

	學名	分布地			樺太	北海道	本州	四國	九州	朝鮮					滿洲	シベリヤ	千島
		南	西	北						北	西	中	南	濟			
1	<i>C. oedippus</i>						×			×	×	×	×	×	×	×	
2	<i>C. hero</i>	×	×	×	×					×	×	×	×		×	×	×
3	<i>C. amarylis</i>										×	×	×	×	×	×	

即ち *C. hero* の分布が北方に偏し，特に *C. h. neoperseis*, *C. h. latifasciata* は特に北方に分布してゐる．而して *C. oedippus* はかなり南部迄分布し，その南限は大體六甲山及び濱松地方，即ち北緯 $34^{\circ}36'$ 位であると思はれる．筆者は未知であるが，山口縣邊からは充分 *oedippus* の採集される可能性あり，採集されたとすれば之が南限となるであらう．本屬は飛翔距離が短いのと北方系の蝶が示す殘留的分布を爲してゐるので分布地は局部的で，分布の限界は比較的明らかである．而しておそらく *oedippus* は四國九州からは採集されないであらう．元來日本蝶類界始つて以來 *C. arcania insubrica* の存在問題以外には地味な存在であつたのが本屬である．今後本屬を含む *dunkle Familie* ともいふべき *Satyridae*

の研究を期待して止まない。

本属の生態は圖鑑類にもある如く、例を *C. oedippus* に取れば、1) 濕氣を帯びた禾本科植物の生えた斜面、2) 濕地帯、3) 山頂草原帯に多く、禾本科植物の間を縫ふ様にして飛んでゐる。飛翔距離は短く、すぐ静止する。道路を横斷する場合には地上 3~5cm. 位を飛んでゐる。一日中の活動は午前中、特に 10~11 時頃が最も盛んで、午後には影をひそめる。……之は *C. oedippus* の京都府下半國山及伯耆大山に於ける觀察であるが、本属の他種、他地方の生態もあまり變らないであらう。

本属の生活史は未だ日本で記録せられた事がない様である。大抵の圖鑑類には歐洲のものに依る結果より、禾本科植物を食草に擧げる事で一應事足れりとしてゐる。即ち *C. oedippus* は宮島氏は“日本蝶類圖説”に於て「仔虫綠色にして暗色の背條あり、側條は淡黃色を呈す。莎草を食す。」と云ひ、“日本昆虫圖鑑”には「幼虫は竹の葉を食す」とあり、“日本昆虫大圖鑑”には「ヨシの葉を食す」等と云つてゐる。最近は生活史の研究も高まつて來たやうで、一部の新進研究家の group の雑誌は生活史研究の記事であふれてゐるといつた盛況だ。白水氏は“寶塚昆虫館報”第 36 號、例の好著で、産卵習性：恐らく食草の葉に一個宛、發生回數：年一回、越冬態：恐らく幼虫、食草：本邦では未調査、ヨーロッパではカヤツリグサ科及びアヤメ科の *Carex glauca*, *Iris pseudacorus* 等の葉を食すと云ふ。——と書いて居られる。柴谷氏の飼育せられたところに依ると、(途中にて幼虫逃亡) スズメノテツバウ・オホスズメノカタビラ・イヌビエ・カヤツリグサを食し、上記の如く竹やササは食はないといふ事である。⁽¹⁾ かなり飼育に便利な普通種の *oedippus* でさへこの様であるから、他は推して知るべしと言はざるを得ない。食草が判つてゐるのであるから、近くに産地を有する人は努力して頂き度い。

2. 各論

1) *Coenonympha oedippus annulifer* BUTLER

FABRICIUS : *Papilio cedippus* Mant, l.s. ii, p. 31. (1787)

BUTLER : *Coenonympha oedippus annulifer*
Ann. & Mag. Nat. Hist., (4) xix p. 91 (1877)

PRYER : *Coenonympha oedippus* Butterflies of Japan (1886)

宮島幹之助 : *Coenonympha oedippus* 日本蝶類圖説 (1921)

松村松年 : *Coenonympha oedippus* 日本昆虫大圖鑑 (1931)

内田清之助 : *Coenonympha oedippus annulifer* 日本昆虫圖鑑 (1932)

土居寛暢 : *Coenonympha oedippus annulifer* 朝鮮の蝶類 (1934)

(1) 柴谷篤弘 : THECLA Vol. 2, pars 4. (1943)

石 宙 明 : *Coenonympha oedippus* 關西昆虫學會々報 No. 8 (1939)

平山修次郎 : *Coenonympha oedippus annulifer* 蝶類圖譜 (1939)

白 水 隆 : *Coenonympha oedippus annulifer* 寶塚昆虫館報 (1943)

以上の如く大體本邦産は大體 *Coenonympha oedippus annulifer* なる亞種として取扱ふのが妥當の様である。而して最も注目すべきは石氏のもので、氏獨特の考察に依る注目すべき結果である。即ち氏は 7000 に満たんとする朝鮮産の個體を検し、“其後蒐集せる多くの個體を調べると *f. annulifer*, *f. amurensis* は勿論、原型も *ab. miris* FABR., *ornatissima* STAUF., *pedemontana* ROSSI 等も含まれ、而も其變異は連續するのみならず錯雜してゐるので此の種は單に *C. oedippus* として取扱ふ方が簡單且穩當のやうに思はれる。”と云はれてゐる。勿論變異の多い本種ではその變異が錯雜するのが當然であり、たゞ單なる數の上での學名整理は如何かと思はれる。*annulifer* と *amurensis* は産地もかなり明らかに別けられてゐる所からすればやはり便宜上區別するのがよいのではなからうか、(後者は小形、眼狀紋大、裏面濃色なる亞種である。)

本種の分布地は本州・朝鮮であり、本州では大體山地一帯に極限せられた棲息地を保つてゐるやうである。特に中國山脈の丘陵地は各地に本種の多産地が見出される、朝鮮でも各地に多いやうである。又本種の分布の面白い事は四國・九州に産しない事で、更に北海道に産しない事は全く奇とせねばならぬ。*Melitaea protomedia*, *Everes lacturnus kawaii*, *Spindasis takanonis* 等の分布と共に本州・朝鮮間の生物地理的關係を示す一つの有力な鍵となるのではなからうか。

さて極めて興味なるのは本種裏面の波狀帶である。本州の本種は關東のものは白く太い巾を有する帶であるが(♂には之を欠くものあり)西漸するに従つて文字通り波狀となる傾向を増し、京都府下半國山のものでは單調な帶のものと、波狀帶のものとが混じてゐる。更に伯耆大山のものは波狀帶の凹凸はげしく中には途中にて切れて點紋列を爲してゐるものすらある。大山の本種は前後翅裏面の波狀帶の凹凸のはげしい事の極端を示すと共に一般に裏面の暗色なる事。下記の表にある如く他地方のものより稍大なる事、等に依り他地方のものと區別せられる依てこゝに伯耆大山産の本種を新亞種として記載する。

***Coenonympha oedippus arothius* subsp. nov.**

本亞種は大型であり、圖示せる如く後翅眼狀紋の内側の白色帶は凹凸はげしく、時には波狀の頂上のみ殘存して、點紋列を爲す事がある。本州に産する *C. o. annulifer* との差異は、1) 概して大型なる事。2) 裏面の地色黒味強き事。3) 後翅裏面、眼狀紋内側の白帶は波狀を爲しその凹凸はげしい事。4) 翅形の前翅端に於てやゝ圓味を呈する事。5) 裏面の銀色帶の外側の帶は *annulifer* 程明らかでない事。6) 眼狀紋は一般に多く出現し、大形

で且その中の黒色部大きく従つて黄色環の細い事。である。全體を綜合して *annulifer* と區別出来る。

Holotype : ♀, 伯耆大山. 18/vii, 1943, 鳥居正名採集並に所藏。

Allotype : ♂, 伯耆大山. 18/vii, 1943, 鳥居正名採集並に所藏。

Paratypes : 4♂♂, 伯耆大山. 18/vii, 1943, 鳥居正名採集並に所藏。

筆者は又輕度の異常型を有するのでそれについて記す。

***Coenonympha oedippus annulifer* ab. nov.**

翅表, 特に前翅に灰褐色の斑を生じ, その部分のみ光澤を有し, なめらかな感じを與へる。裏面は明色で, 外縁に沿ふ銀色帯は細く前翅ではほとんど消失し, 後翅では銀色帯は翅脈により切斷せられ, 外側を細いが明らかな黒色帯で縁取られてゐる。性 : ♂,

京都府下半國山, 20/vi, 1943, 鳥居正名採集並に所藏。

石市明氏の前記の論文にならつて翅長並に裏面の眼狀紋を測つて, 下記の表を得。

翅長 產地・性	18mm	19	20	21	22	23	合 計
大 山 ♂ ♀		2	2	2	1	1	8
半 國 山 ♂ ♀	9	11 2	5 4				31
六 甲 山 ♂ ♀	1	5	2				8
其 他 ♂ ♀	2	4	1	2			9
合 計	12	22 2	8 6	2 2	1	1	56

室 型	前翅 6	5	4	3	2	1	後翅 6	5	4	3	2	1	大 山	半 國	六 甲	其 他	計
1							○		○	○	○	○		2	1		3
2					○		○		○	○	○	○		4	2	3	9
3					○		○	○	○	○	○	○		1			1
4				○	○		○			○	○	○		1			1
5				○	○		○		○	○	○	○	4	14	2	2	22
6			○	○	○		○		○	○	○	○	2	5	2	3	12
7			○	○	○		○	○	○	○	○	○	1	2			3
8		○	○	○	○		○		○	○	○	○	1	2	1		4
9		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○				2	2

石氏の研究では本來の7の型が最も多い様であるが, 筆者のものでは石氏の第4位に當る

本表の5の型が最高である。朝鮮産の統計については石氏の論文を参照されたい。

2) *Coenonympha hero* LINNE

2a) *Coenonympha hero perseis* **Perseis** LEDERER

- | | | |
|---------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| LEDERER | : <i>Coenonympha hero perseis</i> | Verh. Zool.-bot. Ges. Wien., (1853) |
| 石 宙 明 | : <i>Coenonympha hero perseis</i> | 鹿児島高農開校 25 周年記念論文集 (1943) |
| 土 居 寛 暢 | : <i>Coenonympha hero perseis</i> | 原色朝鮮の蝶 (1934) |
| 堀 玉 貫 | : <i>Coenonympha hero perseis</i> | 樺太昆蟲誌第一報 (1937) |
| 平山修次郎 | : <i>Coenonympha hero perseis</i> | 蝶類圖譜 (1939) |

本種の分布地は、樺太一圓・千島・北海道・全朝鮮・満洲・アムール・ウスリー・アルタイ等の諸地方である。本種は北海道産の *neoperseis* に比してはるかに小形で開張 29~34mm にすぎない。再して *neoperseis* に比して翅の地色黒味強く、翅縁及び眼状紋の周囲の橙黄色部も著るしく濃色である。

前翅暗褐色，暗黄色の鱗毛を叢生し，前縁基部は稍黄色，外縁は濃色にしてその内側に淡黄橙色の線あり。第5室に橙黄色小紋あり，中心は黒色なり。個體により2室にも同様紋あり。中室と外縁の略中央にては裏面紋を透視し得る。

後翅は前翅同様の色彩をなし，翅底黒色，中室及其下方に暗褐色の長毛あり。外縁に橙黄色帯あり，其中に中心灰色の褐色眼状紋あり。その内第2,3室のものは特に大形，縁毛は灰色。

裏面，前翅は黄褐色にして前縁・外縁は暗色，外縁内側に橙黄色帯あり，その内側には銀線を有し，その線に接して第2,5室に眼状紋あり，眼状紋内側には灰白帯あり，2室に起り，6室に達す。後翅内半暗色，外縁に近く巾廣き橙黄帯あり，その外方外縁に沿ひ，銀色線あり，外縁との間に前翅同様橙黄帯あり。内側の黄橙帯中に各室1ヶ宛の眼状紋あり，2,3室のものは大形にして第1室のものは2ヶに分たる。内部に鋸状の灰白帯あり。

本種の生態は，堀・玉貫氏によれば“6月下旬より8月上旬に互り出現，最盛期は7月中旬，(鹿間時夫：ZEPHYRUS. vol. 8, 1938. の論文でも同様である。) 灌木の生じたる草原地に多し，飛翔緩慢，集團性を有し，個々に飛翔する事少し。”(要點のみ) と記してゐる。

食草も大抵の圖譜にあげてあるが外國の記録によるもののみらしい。

2b) *Coenonympha hero pilwonis* MATSUMURA

- | | |
|-----------|---|
| MATSUMURA | : Jour. Coll. Agr. Hokkaido. Imp. Univ. xv, pt. 3, (1925) |
| 堀・玉貫 | : <i>Coenonympha hero pilwonis</i> 樺太昆蟲誌第一報 (1937) |

本亞種の前亞種と異なる所は，

- 1) 表面前翅第5脈の紋を欠き、後翅に眼状紋を有するものにては前種のものよりはるかに小形なり。
- 2) 前翅裏面中央部に白色帯を欠き、3ヶの分裂せる斑紋を有す。

分布地：樺太北部國境附近，半田澤・ピレオ・オノール・ルイコフスコエ。

前亞種と混合せるも簡體數僅少，併し南樺太より發見されず，國境附近に固定してゐる所よりすれば一亞種として存在するものと思はる。

2c) *Coenonympha hero neoperseis* FRUHSTORFER

FRUHSTORFER: *Coenonympha hero neoperseis* Internat. Ent. Zeits., 2, (1903)

松村松年 : *Coenonympha hero neoperseis* 日本昆蟲大圖鑑 (1931)

内田清之助 : *Coenonympha hero neoperseis* 日本昆蟲圖鑑 (1932)

土居寛暢 : *Coenonympha hero neoperseis* 原色朝鮮の蝶類 (1934)

平山修次郎 : *Coenonympha hero neoperseis* 蝶類圖譜 (1939)

翅表面は暗褐色で縁毛は灰色，♂は前翅端・後翅外縁にかすかに橙色紋を現はす。♀は♂に比して暗色，前翅端に一眼状紋を有し，後翅は外縁に沿ひ暗橙黄色の一带ありてその内側に4ヶの同色眼状紋を有す。

裏面は♂♀共外縁橙黄色，其の内側に鉛色の一带あり之に沿ひて前翅に2個，後翅に7~8ヶの黒色眼状紋ありて，中心は白色，周縁は黄褐色を呈す，眼状紋の内側には太き灰白色の凹凸せる一带あり。

分布地，朝鮮，北海道，（アムール，シベリア）

perseis との區別は前記の通り。

尙 *Coenonympha hero* には下記の亞種や型があるが標本を所有せぬので唯名のみを列べる。

2d) *Coenonympha hero latifasciata* MATSUMURA

2e) *Coenonympha hero coreana* MATSUMURA

2f) *Coenonympha hero koreuja* SEOK

本種は變異が多いのでかゝる多數の亞種，型が記載されてゐる。併し之等は深く研究する事に依り必ず合理的に整理されるだらうと思ふ，筆者も今後多數の個體を検する事に依り，本種の整理を行ひ度いと思ふ。現に *neoperseis* は 1919 年仁禮氏に依り *perseis* の synonym とされて居り，石氏等は之に従つて居られる。

3) *Coenonympha amaryllis accrescens* STAUDINGER

GRAMER : *Papilio amaryllis* GRAMER; Pap. Exot. 4, 1782.

STAUDINGER : *Coenonympha amaryllis accrescens* Stgr. Kat., 1, (1901)

松村松年 : *Coenonympha amaryllis accrescens* 日本昆蟲大圖鑑 (1931)

- 内田清之助 : *Coenonympha amaryllis accrescens* 日本昆虫圖鑑 (1932)
 石 宙 明 : *Coenonympha amaryllis* 鹿兒島高農開校 25 周年記念論文集 (1934)
 土 居 寛 暢 : *Coenonympha amaryllis accrescens* 原色朝鮮の蝶類 (1934)
 平山修次郎 : *Coenonympha amaryllis accrescens* 蝶類圖譜 (1939)

上記の如く、大抵は *Coenonympha amaryllis* の亞種 *accrescens* に朝鮮産のものを同定してゐるが、石氏は原種に同定し、subsp. *accrescens* を原種の synonym とした。森、趙兩氏の“滿洲國の蝶類”では滿洲國産のものを原種に同定してあるから subsp. *accrescens* は原種と決定的な差がないのかもしれない。併し何分標本も少い事とて決定的な事は言ひかねる。

hero	翅表褐色 裏面、眼狀紋 内側の白帶は 前後翅共太く 明らかに現る。 裏面地色 oedippus より 濃色。前翅端 に1ヶの眼狀 紋あり。	perseis	前翅表面第5室に1眼狀紋。 後翅裏面中央白帶明ら。 朝・北
		pilwonis	前翅表面第5室に眼狀紋なし。 後翅裏面中央に3白點 樺
		neoperseis	perseis より翅黒味強し。 眼狀紋の周濃色 北・朝・樺
		latifasciata	北
		coreana	朝
		coreaja	大型、翅基色濃し。 朝
amaryllis	翅表橙黄色	accrescens	朝
oedippus	翅表褐色、 眼狀紋内側の 白帶巾狭し、 翅端に眼狀紋 なし	annulifer	arothius より裏面淡し。 後翅白帶波狀凹凸小。 朝・本
		owakensis	本
		arothius	annulifer より大形。 後翅白帶波狀凹凸大。 本

〔附記〕 滿洲國及新北區の *Coenonympha* 數種について

滿洲國産の *Coenonympha* は、森・趙兩氏の“滿洲國の蝶類”(大陸科學院研究報告, 第2卷第1號)に4種類, 6亞種が記載されてゐる。

- 1a) *Coenonympha hero neoperseis*
 1b) C. h. perseis
 2a) C. oedippus annulifer
 2b) C. o. amurensis

3) *C. amaryllis*

4) *C. iphis khinganensis*

その内4)は新種でコウアンベニヒカゲなる新稱が與へられた。以下之につき原文と筆者の標本を検して説明する事とする。TAB. 1, Fig. 3 を参照されたい。

***Coenonympha iphis khingaensis* MORI et CHO (1938)**

本種は27/vii, 1936. 大興安嶺にて小川謹太郎氏が採集された完模式標本に依り、森・趙氏が上記論文に記載された。(其後石氏は *iphis* の亞種とす)。

翅表は前後翅共淡褐色(丁度 *amaryllis* と *hero* の中間の感じ)で斑紋なく、うすく裏面の眼狀紋が見える。

裏面は前翅淡赤褐色にて斑紋なし、と原記載にあるが中には中室端と外縁の中間に外縁に沿つて白帶を有するものや、翅端に小眼狀紋1ヶを現出するものもある。後翅は鼠褐色翅の基半部は白味を帯べる絨毛密生す。外縁に沿ひ幅狭き銀白色帶(前半微かになれり)あり。其内側に5ヶの眼狀紋(第5室は眼狀紋なし)あり。——併し私の標本の圖に記した1頭のみこの條件に當はまり他の3頭は第5室にも明瞭な紋を有す、圖のものでもわづかながらみとめられる。——第2第3室にあるものは稍大なれどその他は極めて微小なり、尙眼狀紋の内側にその幅の不規則なる白帶あり、第4室に於て最も巾廣く夫より前後は急に巾狭くなり、第2室にて消滅し、第1室に於て更に出現せり、縁毛は表裏共翅の色より淡し。——第2・第3の眼狀紋は勿論大であるが他のものもかなり大である。この點原記載に *Coenonympha arcania satyrin* (アルプス・カルパシア山系に産す)との差異の1項目はやゝ不充分である。又白帶は大抵のものは第2室にもかなり明らかに現れる。尙 *C. arcania satyrin* との差異は翅表暗色強く、後翅銀白色帶きはめて細く、眼狀紋同大にあらず、白色帶の巾不規則な事である。*C. i. iphicles* より眼狀紋小。

Coenonympha 屬は新北區にも分布し私も柴谷篤弘氏の御厚意により2種を所有するがそれについて一寸説明しよう。やはり圖版を参照され度い。

Coenonympha inornata

表面は *C. amaryllis* の如く美しい橙黄色、前翅端に裏面の眼狀紋を現す(1ヶ)。

裏面は前翅基部翅の大半は橙色で美しく、翅端は灰色、眼狀紋1ヶを有す。後翅は前翅翅端部と同様稍濃色、灰色毛を密生す。中室端に細き白色紋を有す。

舊北區の *Coenonympha* とはやゝ異つた趣のする蝶である。

Coenonympha californica

全然 *Coenonympha* の本邦産のものと趣の異つた蝶。

翅表は黄色味の淡くかゝつた白色、後翅は白色長毛を密生す。後翅は一面に黄白色外半は

明るく、内半は灰褐色、白毛を密生する。後翅に 2 ヶの眼狀紋。

全體を白毛で被はれた様な蝶である。

以上文献を検する事も少く、所有する標本も少いので、はなはだ不十分な論文となつてしまつたが、今迄あまり人の注意しなかつた屬だけに何か諸兄の御参考になつたかと思ふ、その目的が達せられれば筆者の幸甚とする所である。(2/ix, 1945)

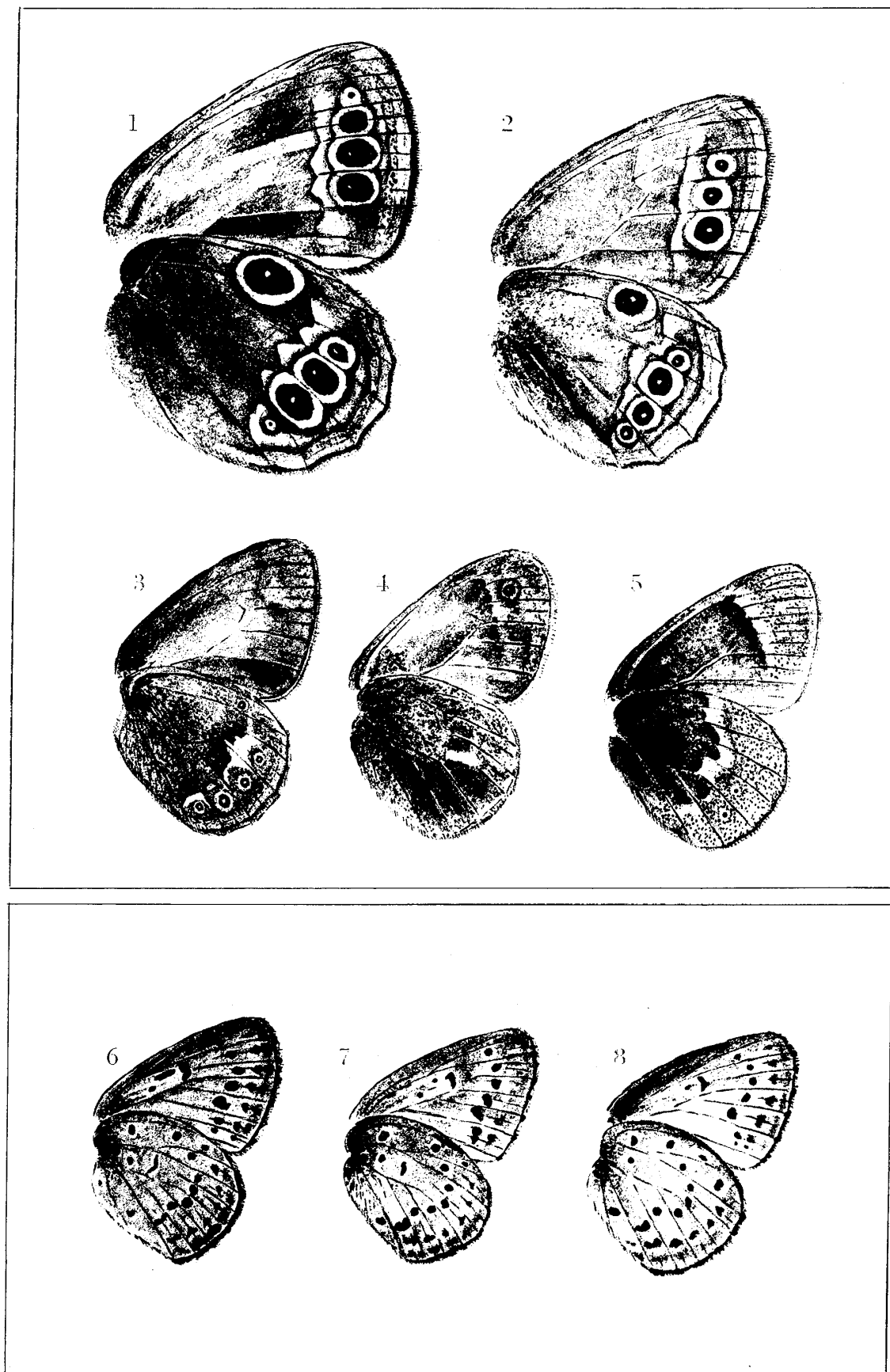


Fig. 1 : *Coeronympha oedippus arothius* subsp. nov. ♀ Holotype

(伯耆大山産)

Fig. 2 : *Coeronympha oedippus annulifer* ♀ (山形縣吾妻山産. 29/vii, 1943)

Fig. 3 : *Coeronympha iphis khirgarensis* MORI et CHŪ ♂ (北滿洲産. 12/vii, 1938)

Fig. 4 : *Coeronympha inornata* ♂ (Saskatoon SASK. U.S.A. 11/vi, 1936)

Fig. 5 : *Coeronympha californica* ♂ (Calif. U.S.A. 30/iv, 1930)

cf. p. 2—10

Fig. 6 : *Glaucopsyche euphemus daisensis* ab. (伯耆大山. /viii, 1943)

Fig. 7 : *Glaucopsyche euphemus hosanensis* (滿洲國延吉. 30/vii, 1939)

Fig. 8 : *Glaucopsyche euphemus daisensis* (伯耆大山.)

cf p. 26.